

中井だより

中井やまゆり園

「日常のあたりまえのありがたさ」

生活第一課 泉寮長 森川 雅人

この4月に泉寮の寮長を拝命しました森川と申します。3月までは同じ生活第一課の山寮でお世話になっておりました。園内異動ではありますが、改めてよろしくお願いいたします。

実は泉寮は、8年ぶりの出戻りであります。以前、6年間在籍をさせていただきましたが、縁あっての泉寮への異動と思っております。

さて、今回のコロナ禍がまだまだ終息が見えない中、ご家族・後見人の皆様には園の運営にご協力を頂き、感謝申し上げます。面会、外出、外泊を控えさせて頂くという、誰もが経験したことのないところで、不安や心配はまだまだ尽きないのですが、今は我慢のしどころであると私たち職員も日々の支援に務めさせて頂いているところです。

こうした状況の中で、自分自身が気づかされたことが沢山あります。これまでの普段の日常の暮らしの中で、あまり気にしていなかったこと一つ一つが実はとても大事なものであると改めて思うようになりました。これは9年前の東日本大震災の時にも感じたことでもありました。未曾有の災害と呼ばれることが、未曾有ではなくなってきたのかも知れません。

最近では異常気象による台風や豪雨災害も一昔前では誰もが経験しなかったようなことが、次から次へと起きています。昨年の台風では、自分自身も生まれて初めて、緊急避難を経験しました。翌日は台風一過、朝から青空で太陽の光がとてもまぶしく、街中も通常通りに動き出しているのを目の当たりにして、とてもありがたく感じたのです。今日と同じ明日が必ず来るという保証は何もないし、誰にも分らないのですが、だからこそそこで浴びた朝陽は何にも代えがたく、本当にホッとするものでした。

今年の春には園内の桜がいつものように見事に咲き誇ってくれました。また今は、園内の各所にツバメが訪れ、巣作り、子育てに励んでいます。また、今年も無事に来てくれたのだなあ、と愛おしい気持ちになります。

私たち支援者も、こうした状況の中だからこそできる支援を見つけていきたいと思えます。小さなことでも一つ一つを大事にしていくことが、今私たちには試されている時代だと感じています。まだまだ、コロナ禍の終息は見えませんが、1日も早い終息を祈るばかりですが、日々の支援での気づきを大事にしていきたい、と考えています。

今後ともよろしくお願いいたします。